十二所地区の神社に残るいい伝え

十二所町の十二天様には、一二の星をちりばめた黄金仏があった。この仏像は、むかしある者が米代川へ馬を洗いに行き三四之助淵の川底に光るものを見つけ、河童平左衛門というものが潜って手に入れたものであるという。戊辰戦役の際に南部軍が持ち去ったといわれている。

浦山には鬼神様がある。青森の鬼沢からきたのでこの名があるという。どういうわけかニンニクを供え、それを食べると中風にならないという。木でつくった手足もあり、痛むときにそれでなでるとよくなるという。

軽井沢には舟板神社がある。むかし米代川へ流れてきた板を拾いあげると、「火の神・水の神」と書いてあったので、祭ると霊験があらたかで、以後二度あった火事でも神社のみが残ったという。

猿間の丹内様には次のような縁起が伝えられている。ある時、若者たちが餅食い競走を行い、五升餅を食べたものを勝とした。しかし、その中で丹内という若者に五合多く入れた餅を食べさせたので、丹内は餅にあてられて死んでしまった。その後、競走した若者たちに悪いことが起るので、皆が相寄って神に祭ったのが丹内様であるという。